

令和7年度 農福連携の取組事例集

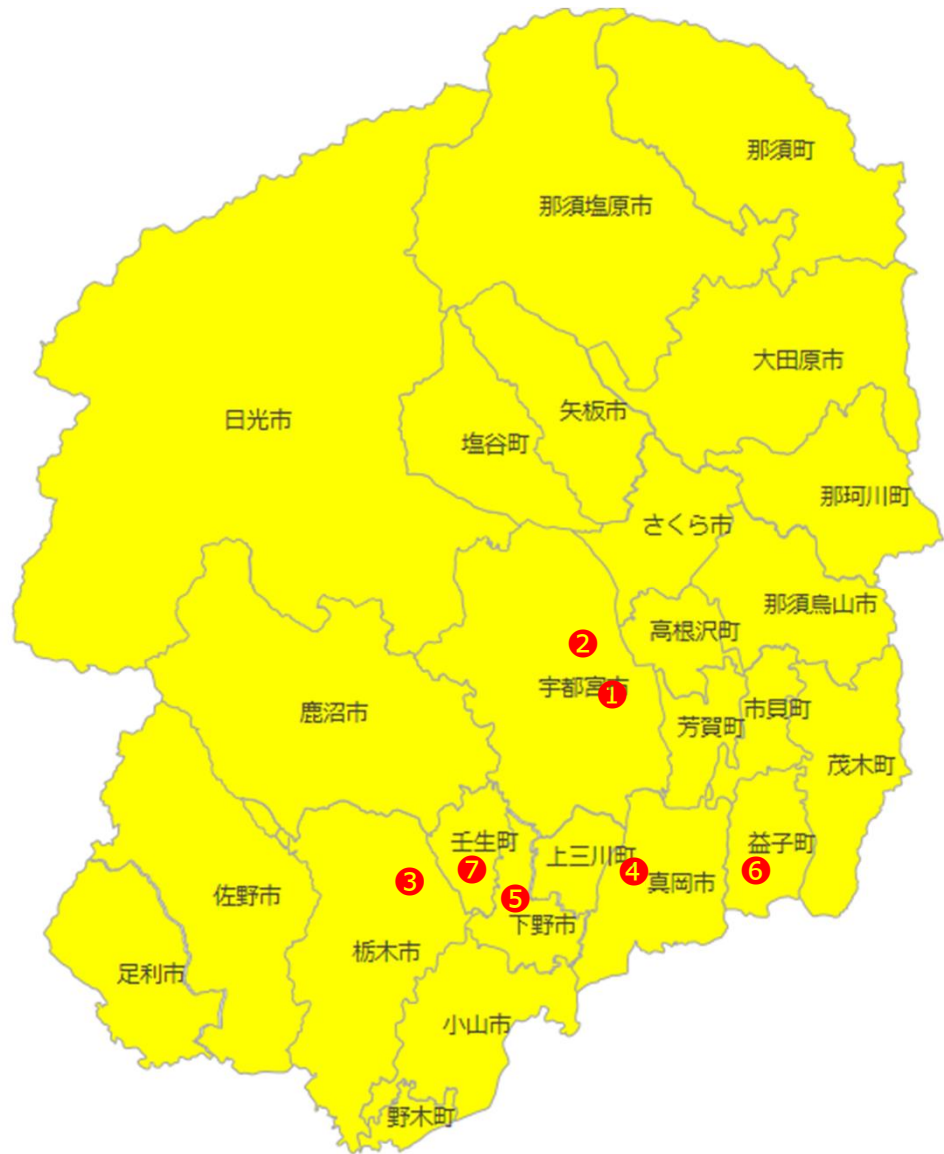


関東農政局栃木県拠点
令和8年5月

本事例集は、令和7年度に関東農政局栃木県拠点が農福連携の取組者と意見交換を行った内容を基に作成しております。

1. こやまファーム（宇都宮市）
2. (株)BASE09（宇都宮市）
3. 特定非営利活動法人ハートフルふきあげとみはりの杜事業所（栃木市）
4. (株)サシノベルテ ワークス真岡（真岡市）
5. Enishi（下野市）
6. 益子マインド（益子町）
7. ワンラインおもちゃのまち（壬生町）

令和7年度農福連携の取組事例マップ



- ① こやまファーム（宇都宮市）
- ② 株BASE09（宇都宮市）
- ③ 特定非営利活動法人ハートフルふきあげとみはりの杜事業所（栃木市）
- ④ 株サシノベルテ ワークス真岡（真岡市）
- ⑤ Enishi（下野市）
- ⑥ 益子マインド（益子町）
- ⑦ ワンラインおもちゃのまち（壬生町）

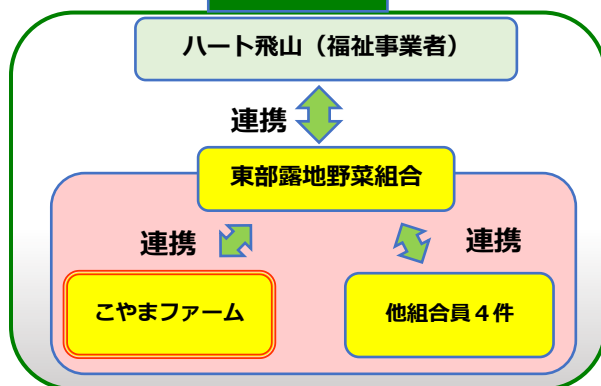
1. こやまファーム（宇都宮市）

基本情報

- 作業従事者：3名（パート12名）
- 受入利用者：14名
- 作業委託内容：「ハート飛山」に、ネギほ場の除草作業を委託している。



体制図



経緯

○福祉事業所「ハート飛山」では、障がい者のために、農作業など屋外での作業をさせたいとの意向があった。たまたま、勤務している知り合いから、農福連携を取り組んでみないかと声を掛けられ、当方がお願いしたい作業内容と一致したため農福連携を始めた。

取組内容

- 作業内容：ネギほ場の除草作業
- 作業時期等：春から秋まで
- 作業時間：4 h/日
- 人員：4名～8名（福祉事業者の都合で人員は増減）、指導員2名
- 工賃：1人当たり1時間200円～400円程度。

取組の特徴・メリット等

- 「ハート飛山」との連携を効率的に行うため、5件の農家で組織する東部露地野菜組合を活用して利用者人数・時期等を調整している。
- 障がい者が外に出て農作業をすることで、精神的にも落ち着くため、農作業は障がい者の心のケアに良い影響がある。
- 工賃は僅かな金額ではあるが、障がい者が自分で稼いだお金を受け取り、それで買物等を行うことが障がい者の励みとなっており、農家としても農福連携に対して取り組みがいがあ

課題や改善点等

- 組合内では、もっと作業をお願いしたいという声もあり、福祉事業者の対応が可能であれば農福連携の取組拡大の余地はまだある。
- ほ場付近にトイレが設置されていないため、作業監督が近隣トイレへの送迎を行っている。ほ場付近のトイレ設置が必要である。

今後の展望

- 農福連携に取り組むことで、現行の経営規模の中で、作業を計画的に進めることができている。
- 今後とも、「ハート飛山」と良好な関係を継続していきたい。

2. (株)BASE09 (宇都宮市)

基本情報

- 従業員数：3名
- 受入利用者：3名
- 作業委託内容：「社会福祉法人恵友会ひびき」にネギの袋詰め作業を委託している。



体制図

社会福祉法人恵友会
ひびき (福祉事業者)

連携 ⇕

(株)BASE09

経緯

○関東農政局栃木県拠点との意見交換において、労働力を将来に亘って安定的に確保したい旨の話をしたところ、近隣の福祉事業者で農福連携を行っているところがあるとの情報提供を受け、取組を開始することとなった。

取組内容

- 作業内容：ネギの袋詰め作業
- 作業時期等：2月頃～5月頃 週2日 (水、金)
- 作業時間：12時30分～14時30分
- 人員：3名 (福祉事業者の都合で人員は増減)

取組の特徴・メリット等

- 工賃は僅かな金額ではあるが、障がい者が自分で稼いだお金を受け取り、それで何かを買ったりすることが、障がい者の励みとなっており、農家としても農福連携に対して取り組みがある。
- 作業場はハウス内であるため、冬の期間でも風等の影響を受けず、障がい者の負担が少なく作業ができる。また、働きやすい環境作りにも配慮している。
- 体調を崩すことが無いように無理のない範囲で作業をお願いしている。

課題や改善点等

○ネギに関する作業は通年で出来ないため、農福連携が途中で切れてしまう。米などの土地利用型農業の中で、作業が出来る部分があるか検討し、福祉事業者と相談していきたい。

今後の展望

○農福連携でネギの袋詰め作業を委託したことにより、他の作業での時間的な余裕が生じることもある。将来的に現行の経営規模の拡大を検討している中で、農福連携を取組むことで計画的に進めることができると考える。今後とも、「社会福祉法人恵友会ひびき」と良好な関係を継続していきたい。

3. 特定非営利活動法人ハートフルふきあげ とみはりの杜事業所（栃木市）

基本情報

- 施設種類：就労継続支援多機能型（B型）事業所
- 従業員数：11名（うち農福連携作業支援員5～6名）
- 登録利用者：14名（うち農作業従事者14名）
- 農作業：水稻（うるち、もち）、ニラ農家から作業を受託。法人施設内の畑においてジャガイモ等の野菜を栽培。
- 販売先：法人事業所、道の駅、法人内施設利用（グループホーム、直営レストラン）



体制図

NPO法人ハートフルふきあげ
とみはりの杜事業所
(法人内事業所)



作業受託

農業者

経緯

- 事業所開設時、地域の障がい者が自立して生き活きと日常生活が送れるよう、就労機会の提供を目的とし、施設内の畑で野菜栽培を始めた。
- 令和7年からは、利用者の賃金増加のため、自社ブランドあげもちの原料であるもち米の作業受託をはじめた。

取組内容

- 作業内容：米（田植え、草刈り～稲刈り）、ニラ（定植～収穫）、野菜等（播種～収穫）等
- 作業時間：通年 10:00～16:00 実作業5時間程度
- 工賃：月平均3万円程度

取組の特徴・メリット等

- 屋外での作業を行う事で、ストレスの軽減や体力向上、精神面での安定につながっている。
- 栽培する喜びや利用者が作ったものを食べられることに喜びを感じている。
- 新たに、米の作業受託を始めたことで、自社ブランドあげもちの原料と直営レストラン等に供給する原材料の確保が容易になり、利用者に多くの労働報酬を払うことができた。

課題や改善点等

- 夏場の猛暑対策が課題であり、作業時間の短縮と常時冷房の効いたバスの中で利用者個々の判断で休憩をとる等熱中症対策を行っている。
- 農業機械が高額なため、購入・所有が難しい。
- 栽培管理を行う上で、専門的な農業指導者の確保が難しい。

今後の展望

- 水稻の作業受託により、安価で安定的にもち米等の原材料が調達できることから、切り餅やおしるこ等新たな商品開発に力を入れていく。

4. (株)サシノベルテ ワークス真岡（真岡市）

基本情報

- 施設種類：就労継続支援B型事業所
- 従業員数：5名（うち農福連携指導員3名）
- 利用者：24名（うち農福連携の従事者は約15名）
- 農作業の受託：トマトのパック詰め、除草作業等
- 農作業以外の作業内容：内職・トマトの容器包装のシール貼り等（8割）



経緯

○平成29年より開業。地元誌「真岡新聞」に農家からのトマト収穫作業の募集があり、当該農家に障がい者ができる作業を依頼したことが始まり。

体制図



取組内容

- 作業内容：トマトのパック詰め、除草作業等
- 作業時期等：10月～6月頃
- 作業時間：1日3.5時間（10:30～12:00、13:00～15:00）基本は週3日（火・木・土）
- 工賃：月平均35,600円程度（農作業を含む全ての作業一人当たり）

取組の特徴・メリット等

- 連携先の農業者が利用者にとっても配慮してくれており、感謝している。
- 共生社会の認識を持ち、これからも継続して取り組んでいきたい。
- 利用者自身が作業したトマトのパック詰めを店頭で見かけることがあり、とてもやりがいを感じている。
- 施設外作業をとっても楽しみにしており、施設全体で対応することから、作業賃も平均化できる。

課題や改善点等

- 施設外作業を楽しみにしており、夢中になりすぎて熱中症になる恐れがある。そのため、当日の体調確認等、作業の調整が必要になる。
- 農福連携を拡大したいと考えているが、職員の人数確保が難しくなっている。

今後の展望

○農業に関わる施設外作業を楽しみにしている利用者が多いので、今後は、利用者のためにも農福連携を拡大し、地域内の活性化にも貢献していきたい。

5. Enishi（下野市）

基本情報

- 施設種類：就労継続支援（B型）事業所
- 従業員数：6名（うち農福連携作業支援員2名）
- 登録利用者：17名（定員20名）（うち農作業従事者6名）
- 農作業：近隣の農家所有畑で野菜（春、秋ジャガイモ、サツマイモ、ホウレンソウ、小松菜、トウガラシ、オクラ）の栽培、草取り
- 販売先：県内広域スーパー



体制図



経緯

○障害の重さに関係なく、全ての人に仕事をする機会を持ってもらい、社会参加の機会を与えることを目的に、前理事長が事業所開設時に近所の畑でニラの栽培を始めたことがきっかけ。

取組内容

- 作業内容：野菜の栽培、（播種～収穫：春、秋ジャガイモ、サツマイモ、ホウレンソウ、小松菜）（播種、定植～収穫：トウガラシ、オクラ）、草取り等
- 作業時間：通年 10:00～12:00（ほ場作業） 13:00～15:00（施設内作業）
- 工賃：月平均2万円程度（ほ場作業：300円/時間 施設内作業：200円/時間）

取組の特徴・メリット等

- 室内で行う組み立て作業では、ストレスが溜まり集中できない者もいたが、農作業を行う事で気分転換ができ、活発に作業を行うようになった。
- 体力も向上し表情が豊かになり、精神面での安定が見られた。
- 作業効率が上がったため利用者に支払う賃金が増えた。
- 屋外での作業を楽しみにしている者もおり、自身が栽培する喜びを感じている。

課題や改善点等

- 熱中症対策について、近年の夏の猛暑により気温が上昇していることから、体調管理には注意を払っている。対策としては、通常の農作業より作業時間を短くし、こまめに休憩をとることや、水分補給を必ず行うようにしている。
- 野菜栽培を行う上で、専門的なアドバイザーの指導・助言が必要。

今後の展望

- 取組の拡大を検討しており、果樹（ユズ）や米の栽培、生産した野菜の加工品（漬物等）の開発等を検討。
- 野菜の栽培管理方法を見直し、収穫量、品質を向上させ利用者の賃金を増やしていきたい。

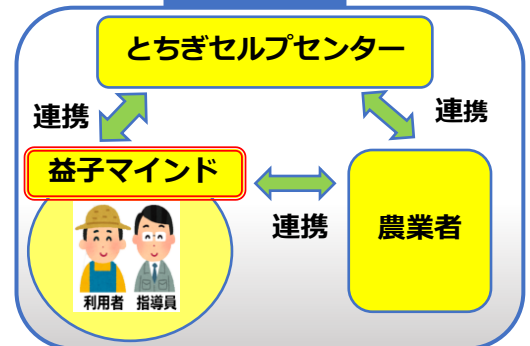
6. 益子マインド（益子町）

基本情報

- 施設種類：就労継続支援B型事業所
- 従業員数：16名（うち農福連携指導員2名）
- 利用者：14名（うち農福連携4名程度）
- 農作業の受託：とちぎセルフセンターを介して加工用苺・サトイモの収穫作業や二ろ栽培の除草作業等を受託している。
- 農福連携の作業割合：約1割
- 農作業以外の主な作業内容：移動販売(買い物不便団地、老人福祉施設を巡回販売)



体制図



経緯

- 縫製工場を経営していた父親が福祉事業を始めたいと平成22年4月に小学校跡地に益子マインドを開所。令和4年4月に現理事長に経営移譲
- とちぎセルフセンターからのマッチングにより農福連携を開始した。

取組内容

- 作業内容：加工用いちご・サトイモの収穫作業や二ろ栽培の除草作業等
- 作業時期等：6月～7月頃
- 作業時間：1日2時間（10:00～12:00）
- 工賃：出来高（1kg160円）、時給400円

取組の特徴・メリット等

- 利用者が自身で作業したいいちごの商品（カップアイス等）をスーパーで見かけると、とても嬉しく思う。
- 施設外作業をととても楽しみにしている利用者がある。
- 賃金の出来高制は、利用者の取組姿勢に違いがみられるため、作業目標が立てやすい。
- 情動的にも良い影響があり、笑顔が多くなり、やりがいや働きがいにつながっていると感ぜられる。

課題や改善点等

- 移動販売がメイン業務であり、年間を通じた農福連携の作業は少ない。
- 農福連携については、基本的にとちぎセルフセンターを介して実施しており、単発の作業依頼が多いため、開始時間などなかなかマッチングしないのが現状。
- 農家から障がい者の理解が得られないことがあり、障がい者に偏見を持っていると感ぜることがある。
- 障がい者には分かりやすく伝えることや、障がい者個々の適性を見極めることが重要。

今後の展望

- 買い物が不便な地域や老人福祉施設に対して、移動販売を14年間実施している。
- 購入者からは、大変喜ばれ感謝されており、とてもやりがいを感じている。
- 今後は、地元農産物を活用した加工品等の製造等による地産地消を推進するとともに、販路拡大を図っていきたい。

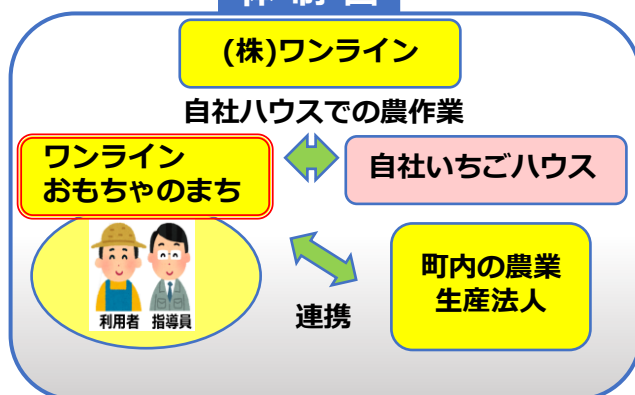
7. ワンラインおもちゃのまち（壬生町）

基本情報

- 施設種類：就労継続支多機能型（A型B型）事業所
- 従業員数：8名（うち農福連携作業支援員7名）
- 登録利用者：18名（うち農作業従事者17名）
- 農作業：自社いちごハウスによるいちご栽培。町内農業生産法人からかんぴょう選別作業を作業受託。屋上緑化植物の苗づくり。
- 販売先：JA、屋上緑化事業者



体制図



経緯

- 障がいを持つ方が働ける場所を作り、地域社会の幸せ作りに貢献していくという目標のもと、2021年に自社いちごハウスを開設し農福連携の取組を始めた。

取組内容

- 作業内容：自社いちごハウスで定植補助、収穫等、乾燥済みかんぴょうの選別作業、屋上緑化植物の苗づくり
- 作業時間：月～金 9:30～15:00 実作業4時間程度
- 工賃：いちごは収穫量に応じて、かんぴょう及び屋上緑化の苗は出来高で支払い

取組の特徴・メリット等

- 農業は取り組みやすい作業も多く、体力の向上や、精神面での安定につながっている部分も見られる。
- 室内作業は苦手だが、屋外作業での取組を希望する者も多い。
- 栽培する喜びや、自分達が作ったものが売れるという喜びを感じられている。
- 事業継続に必要な一定程度の売り上げが確保でき、利用者に多くの労働報酬を支払うことができた。

課題や改善点等

- 農作業は繁忙期、閑散期があるため通年での作業確保が課題点。本年はいちご作業が少なくなった時期にかんぴょうの選別作業を行った。
- 夏場の猛暑対策が課題であり、熱中症対策として氷入りの麦茶を準備している。また、かんぴょうの選別作業時は、扇風機を複数台設置して対応している。

今後の展望

- 当社いちごハウスに隣接したハウスを借り受け、栽培面積を拡大して出荷量の増加を目指している。